

地 域 と 医 療 で 咲 く コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン

2014. 11.

No. 6

あまが咲

県立尼崎総合医療センター（仮称）

だより

【各科紹介】

神経内科
脳神経外科
糖尿病・内分泌内科

新病院に向けてリレーメッセージ
薬剤部長から

コラム

誤解しやすい病院の言葉



阪神市民の憩いの場、秋の夙川公園
（西宮市）



兵庫県立尼崎病院



兵庫県立塚口病院



神経内科

脳から脊髄・末梢神経・ 筋肉まで守備範囲です。

神経内科は開設40年間で築いてきた神経疾患治療の歴史を力に、新しい戦力を加え、他のセクションとのチーム医療で、認知・記憶・ことば・行動・五感・運動能力など、神経に関わるたくさんの機能の障害回復にむけてチャレンジしていきます。

県立尼崎病院 神経内科科長

影山 恭史

日本神経学会専門医・指導医・代議員
日本脳卒中学会専門医
日本リハビリテーション医学会認定臨床医
兵庫県難病相談センター長

県立尼崎病院 神経内科部長

米田 行宏

日本神経学会専門医・指導医・代議員
日本脳卒中学会専門医



治療方針

- 脳血管障害には、脳神経外科と共同による24時間365日の対応。
- 特に、急性期脳梗塞の患者さんは、脳卒中ケアユニットに入院。
t-PAによる血栓溶解療法や脳外科による機械的血栓吸引療法などの適応を迅速に見極め、治療を実施。
- パーキンソン病などの神経難病は、平成2年開設の兵庫県難病相談センターと協力して地域包括的な医療を提供。

対象とする疾患

- ① 脳卒中、特に脳梗塞の急性期治療
- ② パーキンソン病、多発性硬化症など
神経難病の包括的治療
- ③ 物忘れの診断・治療
- ④ けいれん・てんかんの急性期治療
- ⑤ 髄膜炎、脳炎、脳症、ギラン・バレー症候群
などの神経救急疾患
- ⑥ 末梢神経・筋・脊髄疾患など



後列左から：米田医師、太田医師、影山医師、足立医師、山田医師（塚口病院）
前列左から：野村医師、橋本医師、石原医師、大井医師

進化する脳神経外科 —脳卒中は時間との勝負です—

脳神経外科では、正確な診断と的確な治療を迅速に行うことが必要で、新病院においても、MRI、CT、脳血管撮影など診断機器の利用や、手術、血栓溶解療法やカテーテルによる血栓回収療法にも24時間体制で対応します。また、産婦人科、小児科とも力を合わせて、妊婦さんや小児の疾患・外傷にも積極的に対応していきます。そして、患者さんの早期社会復帰を果たすために、リハビリテーション科、地域医療連携センターとも緊密な連携をとりながら、病院が一つのチームとなって取り組んでまいります。

県立尼崎病院 脳神経外科科長

山田 圭介

京都大学医学博士
京都大学臨床教授
日本脳神経外科学会専門医・指導医・代議員
日本脳卒中学会専門医・評議員
日本脊髄外科学会専門医



対象となる疾患

- 脳血管障害：脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、もやもや病
- 脳腫瘍：原発性脳腫瘍、転移性脳腫瘍、下垂体腺腫
- 頭部外傷
- 脊髄疾患：脊髄腫瘍、頸椎・腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症
- 特発性水頭症、三叉神経痛、顔面痙攣、髄液減少症

治療方針

- 4名の脳神経外科専門医と2名のレジデントで、脳神経外科疾患全般を取り扱っています。
- 治療では、開頭手術のみならず、血管内手術、神経内視鏡手術、定位放射線治療、化学療法などを組み合わせて、低侵襲で的確な治療を行います。
- 手術中にも、脳波、SEP、MEP、ABRなどの各種モニターを用いて、安全性を確保します。
- 治療方針の決定には、自然歴、内科的治療、外科的治療の有効性とその危険度などのエビデンスに基づいて、患者さんとその家族の方の意志を尊重いたします。
- セカンドオピニオン等の相談にも積極的に対応しております。



左から：佐々木医師、中嶋医師、山田医師、堀川医師、山口医師

糖尿病・
内分泌内科

生活習慣病診療において 地域の中心的役割を担います。

現在、我が国の糖尿病患者数は約950万人と推定され、糖尿病は代表的な国民病の1つです。しかし、その約3割が未治療と考えられており、合併症を引き起こす前に糖尿病を早期発見し十分な血糖コントロールを行うことが大切です。新病院では、「生活習慣病センター」が設置され、糖尿病をはじめとした生活習慣病全般への取り組みを重点的に行います。当科は、他科の協力を得ながら生活習慣病センターにおいて中心となって活動していきます。

県立尼崎病院 糖尿病・内分泌内科科長

中村 嘉夫

京都大学医学博士
京都大学糖尿病・内分泌・栄養内科臨床教授・非常勤講師
日本糖尿病学会専門医・指導医・学術評議員
日本内分泌学会専門医・指導医・評議員
日本内科学会認定医・指導医



県立塚口病院 糖尿病・内分泌内科科長

北野 則和

日本内科学会認定医
日本糖尿病学会専門医・
研修指導医
京都大学糖尿病・内分泌・
栄養内科臨床教授



糖尿病・内分泌内科の紹介

糖尿病に対しては、インクレチン関連薬やSGLT2阻害薬等の最新の治療薬を取り入れ、患者様の病態や社会背景に適した治療を行っています。また、インスリンポンプ治療や持続血糖モニタリング装置を用いることによって、1型糖尿病においてもきめ細やかな血糖コントロールを目指しています。また、甲状腺や副腎疾患を中心に各種内分泌疾患も幅広く診療しています。

対象とする疾患

《糖尿病》

1型、2型、妊娠糖尿病を問わず全ての型を診療

《内分泌疾患》

甲状腺・副腎・下垂体・副甲状腺・性腺などの内分泌疾患
特に、バセドウ病や甲状腺癌に対しては、アイソトープ治療を実施



後列左から：細川医師、大谷医師 前列左から：中村医師、許医師
(上記医師以外に下田平医師、井出医師も所属)



新病院に向けて

薬剤部長から



リレーメッセージ

～新病院では、さらに様々な場所で薬剤師が活躍します～

★ 紹介状を中心とした高度専門医療の提供

薬剤部は、患者さんの健康を守り、安全・安心で納得していただける医療を提供するために、薬物療法の適正化や医薬品の安全管理に努めています。また、他の医療スタッフとともにタッグを組み、薬のプロフェッショナルとして医療をサポートしています。

新病院では、病棟に薬剤師が常駐できる環境を目指し、服薬指導、処方支援、医薬品管理、医薬品情報の提供等を充実させ、医師や看護師等とも患者さんに寄り添い、薬物療法における有効性・安全性の確保に努めます。さらに手術室にサテライト薬局を設け、医薬品の安全管理や適正使用に貢献します。

外来では、救急初療室、外来がん化学療法室等で、外来患者さんへの服薬指導及び薬や副作用に関する相談に対応します。



★ かかりつけ薬局を持ちましょう

新病院では外来処方原則院外処方となります。ぜひ、お近くにかかりつけ薬局をお持ちください。

かかりつけ薬局を持つ事により、複数診療機関にかかられている場合でも薬の重複や飲み合わせ等の総合的な管理が可能になります。また、患者さんのご希望にそったきめ細かな調剤も可能です。

尼崎病院の薬剤部では、以前から地域の調剤薬局と合同研修会を開催しています。今後も地域の医師や薬剤師と密接な連携を図り、外来・入院の切れ目のない安全・安心な医療を患者さんに提供できるよう努めます。

薬剤部は、「存在感のある信頼される薬剤師」をモットーに、患者さんの治療に貢献できる薬の専門家を目指していきたいと考えています。



県立塚口病院 薬剤部
薬剤部長 寺川 則子



県立尼崎病院 薬剤部
薬剤部長 福井 英二

次号予告

次号は、「県立尼崎病院 診療部長 平林正孝」と「県立塚口病院 副院長 兼 診療部長 永井朝子」からのメッセージです。

統合新病院の開院に向けて

現在・過去に、尼崎病院と塚口病院、両病院にて診療を受けられたことのある方へ

《名寄せ作業》にご協力ください！

現在、尼崎病院と塚口病院では、統合新病院の開院に向けて「名寄せ作業」をおこなっています。

「名寄せ作業」とは、「**尼崎病院カルテ番号**」と「**塚口病院カルテ番号**」を「**新病院でのカルテ番号**」として一つに合わせまとめる作業です。カルテ番号を一つにまとめることで、患者さまの両病院での「診療情報、基本情報、診療履歴など」が、新病院では一つの情報として統合され引き継がれます。

よって、「名寄せ作業」の対象となる方は、両病院にて現在診療されている、あるいは、以前診療されていた患者さまとなります。

尼崎病院では各外来診療ブロック受付にて、また、塚口病院では玄関受付にて、「名寄せ作業」として両病院の診療履歴を確認させていただいていますので、ご協力ください。（医事企画課より）



① + ① = ①

お知らせ

兵庫県立尼崎総合医療センター（仮称）
Facebook ページを開設しています。

兵庫県立尼崎総合医療センター フェイスブック

検索



Find us on
Facebook



してね！



ICTシステム「阪神医療福祉情報ネットワーク: “^{はんしん}h-Anshin むこねっと”」が稼働!

.....一大きく変わる、阪神間の医療連携.....

地域内完結型医療を目指すため、地域内の複数医療機関に分散した診療情報を一つに集約し、各医療機関で共有・閲覧することの必要性が求められています。その方策として、現在、阪神間では、ICT化医療連携システム「阪神医療福祉情報ネットワーク(“^{はんしん}h-Anshin むこねっと”)」が稼働しています。

●“^{はんしん}h-Anshin むこねっと”の構築は、阪神間での大事業です

尼崎市医師会が主体となり、県立尼崎病院・兵庫医大・民間病院協会・他市の医師会などが協力し、地域医療連携システムのICT化推進を図った阪神地域医療再生計画事業です。阪神間7市1町の住民と医療機関を対象とし、「患者さまの診療情報」と「各医療機関の機能情報」の共有実現を目指しています。

●“^{はんしん}h-Anshin むこねっと”は、3つシステムから成り立っています

《患者診療情報共有システム》地域内の複数医療機関に点在する皆さまの診療情報(画像、検査結果、薬/注射処方、診療サマリー等)を一つに集約し、どの医療機関から一つのカルテのようにインターネット閲覧が可能です。

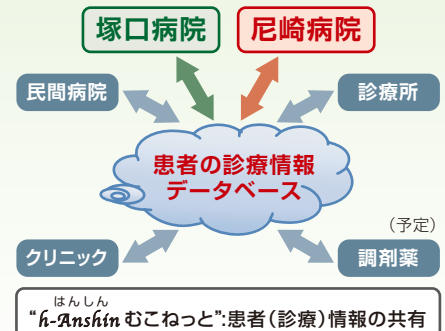
(注: “^{はんしん}h-Anshin むこねっと”の利用を希望され、同意された患者さまのみに提供されます。)

《二次救急システム》病院は、リアルタイムな救急患者受入れ状況をインターネット上で提示し、救急隊の救急搬送先の決定を容易にします。

《医療機関情報共有システム》医療機関の診療機能情報をデータベース化。患者さまに適切な医療機関を推奨する為の条件検索システムです。

●“^{はんしん}h-Anshin むこねっと”が普及すれば...

点在する患者さまの診療情報や医療機関の機能情報を地域内での共有することにより、地域における医療資源の最適化と質の高い一貫した医療体制の整備が可能となります。



『著作者: デザイナー 平松美奈子』

誤解しやすい病院の言葉

シリーズ
No.5

医療者が病院で使用する病状や病名などの医学用語には、一般の皆さんが日常生活で用いる言葉と意味合いが大きく異なったり、馴染みのないものがあります。

【病理検査(びょうりけんさ)・生検(せいけん)】



内視鏡検査や手術・処置の結果説明時に、我々医療者が患者様に対してよく使う言葉に、「**病理検査**」、「**生検(生体検査)**」という言葉があります。馴染みのない言葉かもしれませんが(統計報告では、認知度43%)。患部の組織や細胞の一部をメスや針などで採取して、顕微鏡で詳しく調べる検査のことで、内視鏡検査や手術のほか様々な診療領域で病理検査は実施されています。これによって、病気を正確に診断することが大きな目的ですが、次のステップ、すなわち、治療に進むための重要な検査であることも多いです。

「病理検査」や「生検」は正確な診断と治療方針の決定に重要な検査であることをご理解ください。



編集後記

秋の行楽シーズン到来と言うところですが、あいにくの2週連続の台風がやってきました。それも休日・連休とは、とても残念です。でも、まだまだ行楽に、スポーツにと良い日々が続きます。秋をたっぷり楽しんでみてはいかがでしょうか。これからの時期、朝晩の温度変化の大きい季節です。皆様も体調管理には十分気をつけてお過ごし下さい。

(尼崎病院 T. N)



兵庫県立尼崎病院

〒660-0828 兵庫県尼崎市東大物町1丁目1番1号
TEL 06-6482-1521(代表) FAX 06-6482-7430
<http://www.amahosp.amagasaki.hyogo.jp/>

兵庫県立尼崎病院

検索



兵庫県立塚口病院

〒661-0012 兵庫県尼崎市南塚口町6丁目8番17号
TEL 06-6429-5321(代表) FAX 06-6422-7405
<http://www.tsukaguchi-hospital.net/index.html>

兵庫県立塚口病院

検索